

第44回学校保健・学校医大会 秋田

1-1 学校訪問プログラム (児童生徒に対するメンタルヘルス理解活動)が 教師の精神疾患理解に及ぼす影響

日時:平成25年11月9日(土)

会場:秋田キャッスルホテル

三重県医師会・学校メンタルヘルス分科会

長尾圭造・柿元真知・小林 篤

1. 背景

- 三重県医師会・学校メンタルヘルス分科会では、この9年間、県教育委員会と協力し、精神科医が定期的に学校を訪れるプログラムを複数のモデル校に対して行っている。

この目的は、

- 1. 子どもの理解の仕方として子どもの内面を知る客観的資料を基にすること
- 2. 子どもの内面をメンタルヘルスの視点から、すなわち子どもの行動・態度を本人の能力・内面特性や、家族・仲間との関係性から理解すること
- 3. そして、それらの問題点に応じて、学校の社会資源のうち、どの分野が担当するかを検討する
- 4. そのうち、クラスでの問題解決が望ましい内容に関しては、クラスの健康度の高い生徒の協力を得ながら問題の軽減や解消・解決を図るところにある

2. 目的

- 今回はこのような活動を行っていることが、それを経験した教師たちにとっては、どのような波及効果を及ぼしているかを

1. 学校メンタルヘルスに対する意識調査

2. 精神障害に対する意識調査

を通して検討した。

3. 対象と方法

- 対象：
 - 三重県内のこの医師会事業に参加している学校と参加していない学校に協力を依頼して同意を得た先生に実施した。
その結果、参加校の44名の教師(参加群)と、非参加校の115名の教師(非参加群)から回答を得た。
- 方法：
 - この目的のために学校メンタルヘルスに対する意識調査質問紙(付録1, 2, 3)を作成した。
 - また、精神障害に対する意識調査はMental Illness and Disorder Understanding Scale(MIDUS)の16項目を用いた(付録4)。

この質問紙は5段階のLikertスケールになっている。

4. 結果(1)

表1 年齢、性別、経験年数								
1 年齢	20	30	40	50	60	無回答	p	
参加群	6	3	15	16	3	0	np	
非参加群	23	24	28	36	3	1		
2 性別	男性	女性	無回答		p			
参加群	20	22	2	np				
非参加群	36	64	15					
3 経験年数 (5,10,20,30)	5年以内	5-10年	11-20年	20年以上	無回答			p
参加群	5	3	6	30	0	P < 0.01		
非参加群	31	18	17	48	1			
p = Mann-Whitney U test								

4. 結果(2)

表2 精神障害への近接度

	参加群			非参加群			p
	あり	なし	無回答	あり	なし	無回答	
研修会	38	6	0	80	33	2	p<.05
接触体験	18	25	1	47	67	1	ns
交流体験活動	18	25	1	47	67	1	ns
障害者ボランティア活動	32	12	0	73	40	2	ns
相談経験	30	14	0	61	52	2	ns
話し合い経験	40	4	0	83	32	0	p<.05
生徒への説明経験	30	14	0	61	52	2	ns
カイ2乗検定							

4. 結果(3)学校メンタルヘルスに対する回答

	参加群						非参加群						
質問番号	a:	b:	c:	d:	e:	無回答	a:	b:	c:	d:	e:	無回答	p
1認識必要	41	3	0	0	0	0	77	33	5	0	0	0	<0.01
2重要問題	42	2	0	0	0	0	76	31	7	1	0	0	<0.01
3教育問題	31	9	4	0	0	0	49	44	17	2	1	2	<0.01
8教師中心	1	6	20	12	5	0	6	19	43	27	19	1	np
9連携必要	41	3	0	0	0	0	72	33	7	1	1	1	<0.01
10連携OK	2	6	18	13	3	2	4	15	45	28	18	5	np
12心の認識	19	17	7	0	0	1	27	69	12	3	0	4	np
13苦手意識	1	9	16	14	3	1	7	30	37	28	9	4	np
14教育以外	9	11	15	5	3	1	15	38	42	13	3	4	np
15葛藤など	26	16	1	0	0	1	53	50	6	2	0	4	np
16反抗・非行	20	14	6	1	2	1	38	52	16	4	1	4	np
17いじめ・病気	13	18	10	0	2	1	29	49	28	3	1	5	np
18いじめ・学校	4	4	15	9	11	1	7	13	41	23	26	5	np

4. 結果(4)参加群のみの回答

質問番号	a : 思う	b :	c :	d :	e : 思わない	無回答
年数	1年以内9	1-3年 25	3年以上 8			1
25思うより多い	21	12	3	2	1	5
26以前より判った	11	24	3	1	0	1
27連携はOK	6	25	5	3	0	1
28平時の必要ない	0	0	5	16	18	1
29対応に疑問あり	0	1	4	19	15	1
30工夫が要る	2	13	20	1	2	2
32生徒把握	0	14	8	6	1	7
33検討会効果	15	12	1	0	1	1
34検査指標	12	14	3	0	0	1
35仲間関係	6	10	11	1	1	1
36経験と勘効果	0	0	13	13	3	1
37保護者理解	5	11	10	1	2	1
38他の専門家	7	13	6	1	2	1
39倫理道徳観	0	2	11	9	6	2

4. 結果(5)

質問番号	参加群					非参加群					p
	a :	b :	c :	d :	e :	a :	b :	c :	d :	e :	
1精神障害ありふれたもの	19	16	4	1	0	45	41	15	6	1	
2薬は脳の働き回復	2	15	15	6	2	7	36	40	19	6	
3支援あれば地域生活可	19	19	2	0	0	55	42	11	0	0	
4精神障害は医学的病気	19	10	10	1	0	35	31	29	13	0	
5想起に適切治療必要	34	5	1	0	0	81	24	3	0	0	
6先ず薬による治療	1	16	20	2	1	9	23	52	18	6	
7リハビリは有効	12	22	5	1	0	30	51	25	2	0	
8脳の病気である	10	11	15	3	1	16	23	50	15	4	
9薬は症状改善に有効	12	19	8	1	0	28	41	25	11	3	
10生活環境は影響する	30	10	0	0	0	65	40	3	0	0	
11誰もがなる可能性ある	31	8	1	0	0	72	29	6	1	0	
12治療が可能である	20	18	2	0	0	44	47	16	1	0	
13治療遅れは経過が長い	26	12	2	0	0	47	40	19	2	0	0<0.01
14薬を続けても依存中毒-	4	6	21	4	5	2	17	55	20	14	
15誤解は社会参加困難	31	7	2	0	0	65	36	7	0	0	

4. 結果(6) MIDUSの参加群と非参加群の合計得点の比較

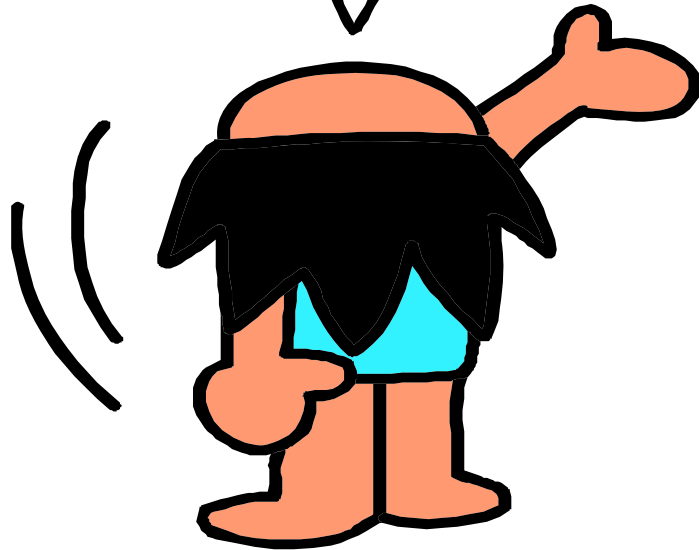
	0-4点	5-9点	10-14点	15-19点	20-24点	25-29点	30-34点	35-40点	平均	1 S D
参加群	2	6	19	11	1	0	1	0	12.58	4.97
非参加群	7	12	25	32	22	8	2	0	15.68	7.63
	a : 0 点	b : 1点	c : 2 点	d : 3 点	e : 4 点	(15項目の最低0点、最高60点 となる)			P<01	市民 914人 平均19.5 SD 7.9

5. まとめ

- 我々の児童生徒に対するメンタルヘルス活動は、
 - 教師の児童生徒に対する内面理解のみならず、
 - 精神障害の理解(精神障害者から見るとスティグマの軽減)にも、繋がることが判った。
-
- 謝辞: 本研究にご協力いただいた三重県下の香良洲小学校、神戸小学校、久米小学校、高野尾小学校、橋北中学校、香海中学校、崇広中学校、南ヶ丘中学校の先生方に、心より御礼を申し上げます。

ご静聴

ありがとうございます



ございました